

JOMF 派遣医師便り (2017. 10)

◆マニラ◆

「フィリピンでの暮らしから」

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

今回は 10 月 20 日に開催した海外医療情報交換会での講演内容をもとに菊地先生からいただいたコメントを掲載します。

JOMF：情報交換会では医療事情に加えて、フィリピンの生活文化などのお話も興味深く拝聴しました。その中で印象に残ったことについてさらに教えてください。

まず、禁酒と禁煙（*）についてです。罰則の他、治療プログラムなどの支援対策も行われているのでしょうか？

菊地先生：以前はコンビニやサリサリストアの前で飲んで喫煙するという風景が当たり前だったのですが、今ではすっかり変わりました。講演でお話ししたように、飲酒の罰金は 3,000 ペソ（約 8,000 円）、喫煙では 10,000 ペソ（約 27,000 円）と非常に高額です。

治療プログラムですが、そのような段階にはありません。禁酒と禁煙の目的が、アルコールやタバコ中毒の人を救うためではないからです。

余談ですが、こちらの薬屋では薬の他に、アルコールを売っているところもあります。

JOMF：フィリピンで入手しにくい薬について、テープを貼る文化がないとのことでした。ホクリナンテープやニトログリセリンテープがなく、他にも湿布薬がないそうですが、キズバンのようなガーゼ付絆創膏もないのでしょうか？

菊地先生：そのような小さなものはあります。テープを貼る文化がないのは高温、高湿度のため貼り薬の文化が根づかないからではないのでしょうか。

JOMF：目薬も日本から持って行く方がいいと聞きましたが、入手しにくいのでしょうか？

菊地先生：目薬は普通に買えます。処方箋がないと買えないものもありますが。コンタク

トレンズ使用者が多く、目薬を使う人は非常に多いです。目薬が「好き」と言ってもいいくらいではないでしょうか。

JOMF：フィリピンならではの良いところを生かした生活についても教えてください。手近なところでトロピカルフルーツについて、フィリピンは、バナナやマンゴーが有名ですが他におすすめはありますか？

菊地先生：マンゴスチンがとてもおいしいですよ。ポリフェノールが含まれていて、殻は胃炎の薬やサプリメントなどにも使用されています。そのほか、健康に良いとされるお茶もいろいろな種類があります。

JOMF：講演会最後にお話された「ひとりごと」について、医療従事者がユニフォームで外に出たり通勤したりといった光景に驚かれたようですが、アメリカでもそのようなことがあるそうです。TVドラマでも見かけます。フィリピン人はアメリカが大好きということもあるのでしょうか？

菊地先生：アメリカの真似もあるのでしょね。しかし衛生的な観点からいいこととは思えません。白衣姿でスターバックスのコーヒーをテイクアウトしてエレベーター内でも飲みながら持ち歩く、ステイタスと思っているのかもしれない。

ユニフォームとは関係ありませんが、日本では庶民的と思われている意外なお店がこちらでは高級とされていたりします。赴任や出張で来られる方にはいろいろな面を見てフィリピンを理解して頂けたらと思います。

JOMF：講演に加えて、さらにコメントもいただき今回はどうもありがとうございました。

(*) 禁酒：夜10時以降に屋外での飲酒は禁止。禁煙：指定された場所以外は禁煙。

(注) 今回の記事は個人的な感想を主体にしておりますのでその点をご了承ください。